

誌上行学講習会

高佐日焯上人

しかし先程一寸申しましたように、これを實際の経験心理とつき合わせてみると、多少のずれが出て参ります。したがってそれを現代的に修正して行かねばなりません。

まず△智▽についてであります。それぞれ成所作智、妙觀察智、平等性智、大内境智、法界体性智とすべてに智がついておりますが、△智▽とは自体顕照の義と言ひ、△知る▽ということとは違ふのであります。智とはさとる||悟る||ということ、自分を自分で照らすはたらき、自分の中にある心の部屋に灯をつけて、はっきり心をさとった状態を言うのであります。△知る△という段階では応用はきかないのです。△智慧▽に変われば応用が出来るわけでありませぬ。ただ知ってるというだけでは役に立ちませぬ。知識と智慧ははつきり違ふのであります。我々は△知る▽という境地から△知慧▽に代えて行く、そして光りを発するとところまで行かねばならないのであります。

「智は自体顕照の義、抹那は我識、阿羅耶は蔵識、阿摩羅は真浄識と訳される語である」

これも難かしく考えないで唯識ではそのような構成になつて承知しておいて下さい。

さて、そこではいよいよ△整識観▽に入るわけでありませぬが、これは経験心理のことでありませぬから、いわば最も近代的な考え方になるわけでありませぬ。御一緒にテキストを読んで参りましょう。

第一識 眼識||げんしき

第二識 耳識||にしき

第三識 鼻識||びしき

第四識 舌識||ぜつしき

第五識 身識||しんしき

知覚識 (第一段)

ここまでを知覚識(ものを知覚すること)と言つています。

「第六識 意識 判断識 (第二段)」

物ごとを判断する識。

「第七識 本能—無明識 (第二段)」

これは意識されてはいませんが、我々がこの第七識に指図されて動いておるわけでありませぬ。

「第八識 理性 法性識 (第四段)」

これは道理をもとにして出来上つてゐる識であります。

「第九識 仏性 神秘識 (第五段)」

これは仏識であつて、あらゆる不思議な神秘の内容が入つてゐるのであります。第八識(法性識)までは神秘ではない。第九識だけが神秘なのであります。このように五つの段階と九つの識に分けて、はつきりとこれから理解して行くのであります。

「これを整識観の五段配当の九箇心識と言ひ、我等の心識が、従浅至深の立体的構成に依つて作られてゐることを、経験心理の上に捕捉する已心の認識である。」 (以下次号)